

2026 年度 水資源・環境学会 研究大会

自由論題部 要旨

雨水を管理して利用するために ―過去、現在、未来―

五十嵐 敏郎

(マテリアルライフ学会常任理事)

雨水活用を進め、水循環を作るためには、「治水蓄雨」、「環境蓄雨」、「利水蓄雨」、「防災蓄雨」が重要である。このうち、治水蓄雨、利水蓄雨と防災蓄雨に資する目的で、2024 年から滋賀県立大学の学生達の自主的な活動グループ「廃棄物バスターズ」と一緒に、リサイクルポリエチレンを原料として、容量 100 リットルの移動型雨水タンクの試作に取り組んだ。ここでは、活動内容と成果、および今後の課題について報告する。続いて、治水蓄雨、環境蓄雨と防災蓄雨に資する雨庭についても触れる。京都は三方を山で囲まれた沖積盆地で過去数千年をかけて地下に琵琶湖の水量の 8 割にも達する豊富な地下水を蓄え、それを利用して食文化や精密機械産業を育ててきた。その地下水が、涵養量の低下や水脈の遮断などで枯渇し始めている。対策としては、多くの雨庭を作って雨水の浸透により地下水を涵養することが考えられる。